

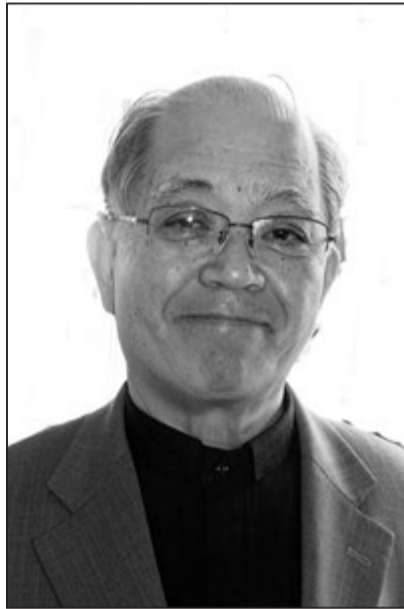


〒892-0841  
鹿兒島市照国町13-42  
カトリック鹿兒島司教区  
電話099 (226) 5100  
振込口座 02030-2-8359  
編集発行 教区広報部  
1部60円年間千共1100円



# 柔和と寛容の人 美島春雄神父帰天

## 突然の訃報に驚き



優しさに満ちていた美島神父

柔和と寛容の人として信者たちに愛されていた教区司祭ベトロ美島春雄神父が三月二十九日(火)未明、亡くなった。七十六歳だった。神父の通夜(四月一日)と葬儀(四月二日)は、神父が主任司祭として働いたザビエル教会でしめやかに執り行われ、大勢の信者が神父との突然の別れを惜しんだ。

その後、徳之島、奄美大島で助任司祭として働き、一九七二年にはアメリカに留学、また翌年九月からはフィリピンで司牧に就いての研修を積んだ。帰国後は教区書記長及び教区会計を担当、その後、名瀬聖心教会、紫原教会、大熊教会、鴨池教会、ザビエル教会、志布志教会、指宿教会で主任司祭、また付属の幼稚園の園長を兼任するなど精力的に働いていた。

そんな美島神父が体調を崩したのは、二〇〇九年の頃。肝臓を痛め手術し、一時は回復したものの体力と気力が完全には戻らず「満足に働けない」という焦りから精神的に疲労した様子

で、二〇一三年から静養と療養に入っていた。昨年四月に療養を終え退院し、教区本部付き司祭となった美島神父の日課は、体力づくりのための朝夕の散歩。教区本部から鹿兒島市本港新町北埠頭までのウォーキングは、海と釣りを愛した神父らしいコース選択だった。

そして三月二十九日未明、美島神父はその大好きだった海に帰って行った。四月一日の通夜で説教した郡山司教は、心を病み孤独だった美島神父の死に言及し、「弟子たちとも離れ孤独に死んでいったイエスの死と美島神父の死が重なる。美島神父はどんなに孤独だったか、それを共に生活しながら感じることで

### カトリック北薩信徒大会

絶えざる御助けの聖母の取次ぎによって  
全世界が真の神を知ることができますように

5月15日(日) 13時開場

場所: 障害者支援施設「薩来園」

薩摩川内市入来町副田6539-1

(1)記念講演 13時30分

講演: ジラルール・ジャン・レイモンド神父  
(レデンプトール会)

(2)記念ミサ

司式: 郡山健次郎司教

(3)聖体賛美式

※この日の献金はカリタスジャパンを通じて  
東日本大震災の被災地へ届けられます。

翌日の葬儀にも大勢の信者が駆け付けた。ミサの終わりの告別式では、司祭団を代表して竹山昭神父が美島神父に「あなたは司祭として生きるにはあまりにも善良で、優しすぎた。教区の、また人間関係の歪みで苦しんだ。そして今やっと解放された。ゆつくりお休みください」と、また信徒を代表して野田健太郎さん(ザビエル教会)が「優しく、気遣いの人だった。皆が励ましてもらった」と別れの言葉を述べた。

### 司祭評議会

四月十一日(月) 教区本部で司祭評議会が開催された。会議には、郡山司教をはじめ教区司祭、教区で働く修道会からの代表者など九人が集まり、秋に開催予定の教区評議会のテーマや日程、今年度の司祭・助祭たちの役割及び担当の確認、六月に迎える聖遺物に関する催しなどについて検討を重ねた。

### 教区司祭会

また司祭評議会に続いて開かれた教区司祭会では、鹿兒島市唐湊にある司教館の庭の管理の仕方について話し合われたほか、司祭た

### 定例司祭集会

四月十二日(火)には教区で働く全司祭・助祭が集う定例司祭集会(コンベンツ)が教区本部であった。この中では、秋に予定されている教区評議会の日程変更(九月十八日から十一月三日開催へ)や今年度の司祭・助祭たちの役割の確認、カトリック唐湊墓地への納骨堂建設についてが検討されたほか、「司祭のための聖年」の企画や長崎教区司祭集会について確認を行った。

## 道標 司祭に叙階されて

聖心教会助任司祭 貴島 丈 弥

体大会参加のためフィリピンのセブとマニラへ行きました。セブの聖体大会ではマニラのサン・カールロス神学院からも後輩たちやお世話になった人たちが、予期せぬ再会や新しい出会い、すべてを通して聖体の秘跡の神秘に触れたよう

三人の息子たちも明るく、やんちゃで楽しく過ごすことができました。大会には直接参加できないけれど、参加者をお世話することでの一部になることができるという言葉の中にもキリストの神秘体を体験することができました。これからの黙想に大きく役立つ経験をさせてもらいました。

司祭に叙階されてそれまでと大きく異なるのはやはりミサと赦しの秘跡を司式できるということですね。自分でありながら自分でないような感覚。確実に主が司式しておられるという確信。この恵みを生かすためにも自分をできる限りイエス様に差し出す、あけわたすことができるように祈っていきま

願います。

昨年十二月六日に、約十年間の養成期間を経て司祭叙階の恵みを授かることができました。鹿兒島教区の皆さん、たくさんのお祈りどうもありがとうございました。福岡で三年間、フィリピンで六年間、そして聖心教会での助祭としての奉仕：大変なことともたくさんありましたが、その分イエス様の慈しみ、赦しを体験することができました。現在は引き続き聖心教会で助任司祭として奉仕させていただきます。叙階後は初ミサ回りなどでまだ落ち着けていない状態ですが、旅を続けながら自分では考えもつかないくらいのお祈りによって支えられていることに気づかされ、感謝と感動のうちに過ごしています。

一月から三週間ほど初ミサと聖

体大会参加のためフィリピンのセブとマニラへ行きました。セブの聖体大会ではマニラのサン・カールロス神学院からも後輩たちやお世話になった人たちが、予期せぬ再会や新しい出会い、すべてを通して聖体の秘跡の神秘に触れたよう

よって本当の意味でイエスの無償の愛に触れたということなど、枢機卿、司教、司祭、信徒の皆さんの話を聞きながら聖体の神秘を自分も体験させてもらいました。セブでの二週間は郡山司教さんがMEで知り合ったというリヴァモン

テ夫妻の家に世話になりました。まさか司教さんが本気だったとは思っていませんでした。忍耐。名も覚えられていない花売りの少女が、洗足式を通して一躍有名になりキリストの体の一部となったこと、母親の足を洗うことに

た。その後、徳之島、奄美大島で助任司祭として働き、一九七二年にはアメリカに留学、また翌年九月からはフィリピンで司牧に就いての研修を積んだ。帰国後は教区書記長及び教区会計を担当、その後、名瀬聖心教会、紫原教会、大熊教会、鴨池教会、ザビエル教会、志布志教会、指宿教会で主任司祭、また付属の幼稚園の園長を兼任するなど精力的に働いていた。



名誉司教  
糸永真一司教



鹿児島教区長  
郡山健次郎司教

# 2016年度 教区と歩む司祭・助祭



出水教会  
萩原義幸神父



阿久根教会  
牧山田一神父



阿久根教会  
石神秀人助祭



大口教会  
アッシャー神父



入来教会  
ハンマ神父



川内教会  
大松正弘神父



溝辺教会  
末吉卓也神父



国分教会  
サンタマリア神父



始良教会  
末吉卓也神父



始良教会  
朴 鎮亮神父



吉野教会  
鄭 法鐘神父



ザビエル教会  
竹山 昭神父



ザビエル教会  
アン神父



玉里教会  
小隈憲士神父



鴨池教会  
泉 浩二神父



鴨池教会  
桃菌淳一郎助祭



紫原教会  
鈴木康由神父



谷山教会  
頭島 光神父



谷山教会  
ムイベルガ神父



谷山教会  
久保俊弘助祭



加世田教会  
ステューブン神父



加世田教会  
川口 茂助祭



指宿教会  
寝占敦之神父



垂水教会  
丸野六雄神父



鹿屋教会  
宋 診旭神父



志布志教会  
ディーノ神父



種子島教会  
梶尾泰英神父



大笠利教会  
内野洋平神父



瀬留教会  
坂本 進神父



大熊教会  
タム神父



古田町教会  
松永正男神父



古田町教会  
久保芳一神父



古田町教会  
西山達也神父



喜界島教会  
四條淳也助祭



聖心教会  
永山幸弘神父



聖心教会  
貴島丈弥神父



小宿教会  
ティエン神父



古仁屋教会  
松永正男神父



母間・和泊教会  
福崎英雄神父



母間・和泊教会  
メニッヒ神父



母間教会  
池上聖行助祭



ラ・サール学園  
山口好信神父



純心聖母会  
関根悦雄神父



静養中  
山口重義神父



神学院 (東京)  
中野裕明神父



YBU (京都)  
小川靖忠神父



大島地区長館  
大野和夫神父



引退 (めぐみの園)  
松森孝郎神父



引退 (指宿市)  
田邊 徹神父



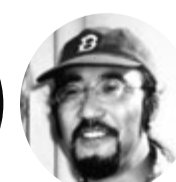
引退 (鹿児島市)  
田原 章神父



教区本部  
朴 昶奎助祭



引退 (東京都)  
成相明人神父



出向 (横浜教区)  
浜崎真実神父

# わたしの初聖体

## 小学校二年 山さき風歌



はじめてはつせいたいをうけようと思ったのは一年生でした。一年生の時のひっこしやなれない学校生活で、はつせいたいをうけるのをあきらめていました。でも教会

でじしゃをしている人を見ながら、「じしゃをしたいからはつせいたいをうけたいな」と思っていました。そしてあのごせいたいがますます気になってきました。だからはつせいたいをうけようと思いました。そして中村シスターにそうだんして、しんぷさまに「はつせいたいをうけたいです」と言ったら「べんきょうしましょう」と言われま



シスターとべんきょうするの二時間あったけど、あつというまでした。そしてごせいたいのもらい方、手のあわせ方、主のいのり、アヴェマリアのいのりなどのべんきょうをおしえてもらいました。ただこれまでずっと吉野教会のおばあちゃんやおじいちゃんに会ってなかつたのでとてもとてもさみしいでした。でもはつせいたいをうけたら吉野教会にくるのは多くなるはず。また吉野教会に行

けるのでうれしいです。ただ山頭シスターと会えなくなるのはとてもさみしいです。わたしははつせいたいをドレスをきるのほのほのシスターもはつせいたいをきてくれるのでうれしいです。はつせいたいをしたらじしゃをしたいです。わたしははつせいたいをうけとつて、とてもきんちょうしましたが、ふつうにしたらできました。

た。そしてきょうりよくしてくれたしんぷさまやシスターや教会のみなさんありがとうございました。これからもじしゃのべんきょうもがんばりたいです。それからきょうもらったごせいたいは大きかったです。その大きいごせいたいをもらってとてもうれしかったです。ふしぎなあじがしました。しんぷさまと半分こしました。とてもとくべつでした。

# シドッチ神父と断定

## 切支丹屋敷跡から出土した遺骨

教皇クレメンス十一世からの指示で日本での宣教を目的に屋久島に上陸したもののすぐに捕らえられ、長

# 司教執務室便り



## 主任司祭の副園長

今年正式に主任司祭の副園長が誕生した。画期的なことだ。従来は、主任司祭と園長というのが鹿兒島教区の常識だった。貧しい教区としては、園長給料をプールすることで教区財政を少しでも楽にしたかったからだ。もちろん、幼稚園設立の第一の目的は福音宣教。しかし、十三年の経験にすぎないが、司祭が二足のわらじを履くのは無理というのが正直な感想だ。「司祭は司祭の職務に専念すべき。園長は信徒にお願いできないか。」長年の夢だった。そして、大隅学園の四園の全園長が信徒に変わった。

フセ、八人でやりくりしていた幼稚園が、今では二十人ものスタッフを擁するまでになった。私は、この時とばかりに、幼稚園改革の先頭を走る大隅学園の園長たちに「主任司祭副園長」の構想を持ち出した。全員が喜んで支持を表明。四人の司祭の給料が幼稚園から出るようになることを意味する。そのことで教区財政が潤うことになるのでうれしいが、何よりも、司祭をスタッフの一人に加えることにより、カトリック幼稚園本来の機能を強化することになることは間違いない。毎日のように顔を合わす副園長先生は、もはや、何かの行事の時に見るだけの「教会の神父様」ではなく、「私たちの神父様」になる。こうして主任司祭と子供たちや先生との距離がぐっと縮まり、先生や保護者達にとっても「教会の幼稚園」という意識がますます増すに違いない。聖マリア学園にも四つの幼稚園があるが、準備は着々と進んでいるので、大いに期待したいところだ。五月は聖母月。約八百人の園児たちを聖母の御手に委ねながら、いつくしみの聖年にふさわしい教会の幼稚園への歩みを深化させてほしい。

# マリア・ポリ2016

5月3日(火)～5日(木)

場所 南薩少年自然の家  
問合せ フォコラーレセンター  
TEL 095 (849) 3812  
直 TEL 090 (5026) 5921

# 会と催し (5月)

- 1日(日) 復活節第六主日
- 3日(火) 世界広報の日(献金)
- 5日(木) 聖体礼拝・ザビエル教会・6時30分～18時30分
- 7日(土) 司祭のマリア運動・ザビエル教会・13時
- 8日(日) 主の昇天
- 11日(水) 鹿兒島市主任司祭会・教区本部・15時
- 14日(土) 聖マリア使徒
- 15日(日) 聖霊降臨の主日
- 17日(火) カトリック北薩信徒大会・薩来園・13時
- 20日(金) 教区巡礼委員会・教区本部・19時
- 22日(日) デイジーノ神父霊名(聖ベルナルディノ)三位一体の主日
- 29日(日) オリーブの会・教区本部・14時
- 31日(火) 司祭のための聖年
- キリストの聖体
- タム神父叙階記念(二〇〇七年)

## 祈りの意向

- 【ノベナ】熊本地震の被災者のため(2日～11日)
- 【祈祷の使徒会】世界共通・女性への尊重
- 宣 教・ロザリオの祈り
- 日本の教会・ひきこもり当事者の支援

# 文芸

## 俳句

鹿兒島純心 川上 和  
マリア様み手差し伸べ桜も舞う  
的に向け乙女の春や弓を張る  
吉野教会 徳永ノブ子  
涙ぐむ司祭ご逝去桜咲く日  
国分教会 政 ノブ子

## 短歌

溝辺教会 松元 史江  
ミモザ咲き春は再びめぐりきぬ召されし  
ひとの御霊安かれ

## 鴨池教会 前田 儀子

ピエタ像磨く窓辺に咲きそるふミルク色の薔薇を春疾風打つ  
しるじろと雲は球体積める午後ブルー・ベリーのジャムを煮てをり  
鹿兒島純心 川上 和  
ファチマの梢に立たすマリアさま子らに託せり平和メッセージ  
大笠利教会 稲 牛憲

## 始良教会 川口 節子

老いぬればいらだつことも間々ありてゆるしの部屋より出る時すがし  
弟子二人さかれたパンで眼あき復活の主と供に歩きし  
軽蔑の的の女と罪人を主は食卓に招かれて居り

# 第二章「成長する福音」

レデンブートル会 谷山教会主任司祭 トマス 頭島 光

## 福音化のプロセス

福音化運動は、分り易く言えば福音という種を蒔く、いわゆる「種蒔き」です。種から芽が出れば、それはやがて茎となり葉をつけて、大きな実をつける木となるでしょう。ここでは福音という種を植えていくために、場所と時間が準備される必要があります。植えられた場所は周りから徐々に福音化されていくはずですが、そのためには、しっかりと肥やしをやらせ、また水はけをよくし、耕されることでしょうか。人の心の奥底でも、きつと深い内省と回心が必要のように、み言葉への目覚めや気付きがないままに、どうして芽を出し、新しく生まれ変われるでしょうか。回心し罪からの解放という喜びが得られたならば、たとえ小さくとも愛をもって人

を救し、み言葉に従いましょう。神の国に向かう希望という茎が育つて来たときには、これをしっかりと保ち、信仰という大きな葉を広げ、神の愛の実りをもつて、人々にそれらを分け与えましょう。

私たちには、もはやこの信仰の歩みを止めることができませぬ。常に福音への希望と喜びの内において、前を向き共に歩いていくだけです。その途上で、もし弱い人、貧しい人、困っている人を見つけたら、足を止めて声をかけ、愛の手を差し伸べてください。こうした福音化運動の波はまだ始まったばかりです。まだ小さな波ですが、私から始まってあなたへ、そしてあなたから別の他者へとつながって、やがては大きなうねりとなっていくことでしょう。

イエス様は「神殿から商人を追い出す」場面で見事に過激なことをなさいました(マタイ21・12、マルコ11・15、ルカ19・45、ヨハネ2・13、22)。イエス様はしからぬこの行動の背景には何があったのでしょうか。

このことを考える前に、まず、両替人が神殿にいる理由を理解しておく必要があります。

イエス様の時代、ローマ帝国内で流通していた貨幣には皇帝の肖像などが彫ってあったため(マタイ22・

20、マルコ12・16、ルカ20・24)、ユダヤ人はこれを偶像礼拝もどきの汚れたものとして忌み嫌っていました。このため神殿へ奉納する際には特別の貨幣が用いられていたのです。このような貨幣は通常所持(流通)してはいけないことから、献金するために境内で両替をする必要がありました。

鈴木神父のやさしいみ言葉

### 神殿でのイエスの怒り

のほは当然かもしれません。次に、イエス様はイザヤの預言を用いて商人たちに「神殿とは祈りの家であるはずが、強盗の巣にしてしまっている」と厳しく叱責

困っている一番小さい人たちに親切にしたのは、私に25・40)というものがありません。この言葉で、すぐ思い出すのはマザー・テレサのことです。ある時、コルカタの駅で一人の老人が倒れたまま手を挙げてマザーを呼んだのです。そのとき、マザーの目に映っていたのは、実は弱って倒れた老人ではなく、「傷付いたキリスト」だったのです。苦しみ、傷付き倒れているその人にとって代わられたキリストを体験することこそ、彼女にとつて新たな召命だったのです。「真の信仰とは、世を変え、価値を伝え、地上での歩みのあとに、よりよい何かを遺そうという望みである」(「福音の喜び」No.183と、教皇様も言っておられます。かつて「福音化」の柱となる表現として「神の国の建設」が叫ばれた時代がありました。その通り、この世界の只中に散見され

困っている一番小さい人たちに親切にしたのは、私に25・40)というものがありません。この言葉で、すぐ思い出すのはマザー・テレサのことです。ある時、コルカタの駅で一人の老人が倒れたまま手を挙げてマザーを呼んだのです。そのとき、マザーの目に映っていたのは、実は弱って倒れた老人ではなく、「傷付いたキリスト」だったのです。苦しみ、傷付き倒れているその人にとつて代わられたキリストを体験することこそ、彼女にとつて新たな召命だったのです。「真の信仰とは、世を変え、価値を伝え、地上での歩みのあとに、よりよい何かを遺そうという望みである」(「福音の喜び」No.183と、教皇様も言っておられます。かつて「福音化」の柱となる表現として「神の国の建設」が叫ばれた時代がありました。その通り、この世界の只中に散見され



は主の怒りに触れて滅ぼされる、と考えられていたのです(ゼファニア1・11)。こうしたことがイエス様を過激な行動に駆り立てたと思われまふ。また、イエス様はイスラエルの民が救われるために、神様に対して贖罪、和解、そして償いのための犠牲獣をささげる時代は既に終わりを告げ、神様による新たな救いの御業がご自分によって始まったことを衝動的に示された、とも考えられます。

様々な矛盾と不正、そして不条理は必ず非福音的なものであります。教会はこれらに対して、いつまでも無関心に、また傍観視するわけにはいきません。教会は共同体としても、また教義においても、その実践においても、この世の欺瞞と社会の不正に對峙し、正義と愛をもって、信仰を証しし、かついつくしみをもって神の国を打ち立てるよう求められているのです。

「熊本地震」緊急募金 受付開始

4月14日から続く大地震で熊本県を中心とする地域で40人超が亡くなり、2千人以上が負傷、約20万人が避難生活を余儀なくされています。余震も断続的に発生し避難の長期化も懸念されます。カリタスジャパンでは、熊本地震被災者支援のための募金を受け付けることに決定しました。お寄せ頂いた募金は広く被災された方々への緊急・復興支援活動のために使わせて頂く予定です。募金受付口座は以下の通り。

郵便振替番号：00170-5-95979  
加入者名：宗教法人カトリック中央協議会 カリタス ジャパン

※通信欄に「熊本地震」とご明記下さい。  
なお、福岡教区でも以下の通り募金を受け付けています。こちらは、教区の判断によって、教会の修復やカトリック関係の被災者支援にも活用されます。

福岡中央銀行(平尾支店)  
口座番号:普通 1076206  
口座名義:カトリック福岡司教区 ※送金者の名前の後に「クマモトジシンシエンキン」と入力して下さい。

**第19回日本臨床パストラル ケア研究会 in熊本**

**いのち**  
～受けとり、寄り添い、受け継いでいく～  
**6月25日(土)～26日(日)**

**場 所**：くまもと県民交流館「パレア」(熊本市中央区手取本町8-9)

**参加費**：2日間通して5,000円(当日参加は6,000円)

※申し込みは、臨床パストラル教育研究センターホームページから

**申込締切**：6月15日

**教育講演講師** 蓮田太二先生、嘉藤茂先生(以上、6月25日)、高木慶子先生(6月26日)

**+KABAYAN SEKSYON+**  
**Pagbubukas ng "Taon ng mga Dukha"**

Habang masayang naghahanda ang Simbahan sa Pilipinas para sa ikalimang sentenaryo ng pagdating ng Kristiyanismo sa ating bayan sa 2021, sumusunod siya sa isang sistematikong programa ng paglinilay. Ang taong 2015 ay nakatutok sa paninindigan ng Simbahan at paglalakbay nito kasama ang mga dukkha. Nagbigay ang Catholic Bishops Conference of the Philippines (CBCP) ng mahusay na material sa inilabas nitong pastoral na panghihikayat: "Upang ihatid ang Mabuting Balita sa mga Dukha (Lk 4:18)."

Nanindigan ang mga Obispong Pilipino: "Ang pangunahing pakikipagtagpo kay Hesus ang dapat maging gabay sa ating paglingap sa mga dukkha." Dito inuulit ng mga Obispo ang mga salita ni Papa Francisco sa kanyang Evangelii Gaudium: Ang Galak ng Ebanghelyo. "Inaanayahan ko lahat ng mga Kristiyano, saanman, at sa pagkakataong ito, sa isang panibago at personal na pakikipagtagpo kay Hesukristo...hingi ko na gawin ninyo ito nang walang humpay bawat araw" (EG 3).

Ipinagapatuloy ni Papa Francisco: "Sa tuwing gumagawa tayo ng hakbang patungo kay Hesus [at sa mga dukha], napag tatanto natin na naroon na siya, hinihintay tayo na may bukas na mga bisig" (EG 3).

Manindigan tayo na gawin ang 2015 isang mabiyayang paglalakbay kasama si Hesus at ang mga kapatid nating nangangailangan.

Ang "Taon ng mga Dukha" ay nagpapaalala sa ating lahat ang mga salita ng Panginoon Hesus: "Talagang sinasabi ko sa inyo: anuman ang gawin ninyo sa isa sa maliliit na ito na mga kapatid ko, sa akin ninyo ginawa." (Mt 25:40). Ang mga salitang ito ay nagpapahayag na ang katauhan ng Panginoon Hesus ay nasa mga dukha. Kaya ang sinumang nagpupugay ng may paggalang sa mga dukha ay ganundin an gating ginagawa sa ating Panginoon Hesus. Pagpalain nawa ang bawat isa sa atin sa pagbigay galang sa mga dukha.

**Katesismo sa Taon ng mga Dukha (Fr. Dino Orolfo)**